



第15回

「いのちのつながり」 小作文作品集

令和7年度



主催：小笠榛原モラロジー事務所

後援：牧之原市・牧之原市教育委員会

公益財団法人モラロジー道德教育財団

「命のつながり」小作文

表彰式

令和8年3月8日（日）

10:00～11:30

牧之原市坂部区民センター

大集会室

《式次第》

開 会

主催者あいさつ

小笠榛原モラロジー事務所
代表世話人 前田 恭典

来賓あいさつ

牧之原市長 杉本 基久雄 様
牧之原市教育長 橋本 勝 様

審査報告 選考委員長

元牧之原小学校校長 植田 伸子 様

表 彰

表彰作品朗読

優秀賞受賞者 3名、特選受賞者 3名

講 話

静岡県モラロジー協議会
会長 杉山 直子

閉 会



目次



目次	1
募集経過	2
主催者あいさつ	3
審査報告	4
審査結果	5
受賞作品		
優秀賞	6
特選	7
入選（5年生）	9
入選（6年生）	12
応募者名	16
応募者数	20



第15回「いのちのつながり」小作文募集要領・日程・経過

作文テーマ	親・いのち・感謝・思いやり・家族等
作文募集範囲	牧之原市立小学校 9校
作文募集対象	5・6年生
募集開始	令和7年10月15日（水）
募集締め切り	令和7年11月28日（金）
応募総数	両学年合わせて580編
作品選考員	小笠榛原モラロジー事務所担当者7名（1次・2次選考）
最終選考員	審査委員長 元牧之原小学校校長 植田伸子先生
作品選考	
1次選考	令和7年12月8日（月） 286編選出
2次選考	令和7年12月18日（木） 73編選出
最終選考	令和8年1月
各賞内訳	優秀賞 3編（市長賞、教育長賞、モラロジー道德教育財団賞） 特選 3編（静岡県モラロジー協議会長賞） 入選 20編（5年生10編、6年生10編） 佳作（上記26編以外の最終選考作品47編）
賞品	優秀賞・特選・入選の方には賞状と副賞をお贈りします。 佳作の方は審査結果にお名前の掲載をさせていただきます。
表彰式	令和8年3月8日（日） 10時～11時30分 牧之原市坂部区民センター 大集会室

主催者あいさつ

小笠榛原モラロジー事務所

代表世話人 前田 恭典

小笠榛原モラロジー事務所主催による、「いのちのつながり」小作文コンクールは、平成20年にスタートしまして、途中コロナ禍の中、中断はありましたが、牧之原市教育委員会様をはじめ、各学校の校長先生や担任の先生方のご協力のお陰で、今回で15回目を迎えることとなりました。

主催者を代表しまして、関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。

本年も、牧之原市内9小学校の5、6年生に応募を呼びかけましたところ、580編もの小作文が寄せられました。

私自身も、1次選考、2次選考と応募作文の選考に携わりましたが、どの作品からも、日常の中に溢れる家族の愛情や、ちょっとした出来事から感じられる家族や友達の思いやり、また団らんの時間の大切さ等、温かく思いやり溢れる家族の中で、子供たちが健やかに、たくましく成長している姿が伝わってきました。開催名称は、小作文コンクールとなっており、各作品に賞がつけられてはいますが、子供たちが家族や友達と過ごした時間を振り返り、自分の経験や感情を素直に言葉にする、また親や祖父母を通して、自らのいのちの尊さに気づく、このこと自体が非常に価値のあることであり、本コンクールの開催の意義でもあります。

現代社会は価値観の多様化により、様々な形やあり方が認められるようになってまいりましたが、どんなに時代が変わろうとも、社会の最小単位は家庭であり、「家和して万事なる」のことわざの通り、温かで思いやりのある家庭の存在が、地域社会のより良い発展に、ひいては国家の安定と存続に欠かすことができない、重要な基盤であると考えています。

これからも、当事務所の「いのちのつながり小作文コンクール」が各学校の道徳教育の一助となり、明るく住みよいまちづくりに貢献することができれば、幸甚に存じます。

今後とも、何卒ご協力いただけますようお願い申し上げます。

改めて、本コンクールの開催にご尽力いただきました皆様に、感謝申し上げ、主催者のあいさつに代えさせていただきます。ありがとうございました。

審査報告

選考委員長

元牧之原小学校校長

植田伸子先生

小笠原モラロジー事務所主催の「いのちのつながり」小作文コンクールは、今年で第15回を迎えました。牧之原市内小学校5、6年生の皆様から580点の応募がありました。児童数が減少している中で、昨年の応募数495点より多くの作品が応募されました。協力してくださる皆様方の真摯な取組に深く感謝する次第でございます。その姿勢に應えるべく、一人一人の作品を丁寧に読ませていただき、第一次選考、第二次選考、最終選考を経て、本日の表彰式に至りました。

審査にあたり、この小作文コンクールの趣旨を踏まえ、文章の技巧的な部分以上に「自分事として課題を捉えているか」「相手を意識した説得力のある豊かな表現であるか」に重きをおいて審査いたしました。短い限られた文字数の中に、自分の体験や思い・主張を入れ込むのは、とても高度な作文能力が必要だと思うのですが、子供たちは、そんな困難をものともせず、実に、純粹で新鮮な感性でもって、生き生きとした作文に仕上げてくれていました。

本年度は、テーマである「親」「いのち」「感謝」「思いやり」「家族」について一般的な論ではなく、自分の身近な経験や体験から実感したことを主題に沿って、自分の主張として述べた作文が多かったのが特徴でした。テーマ自体が日常生活の中では「当たり前」のように存在しているものなので、この作文を書くことによって、自分の経験・体験してきたことを立ち止まり、テーマについて考えを巡らすというのは、本当に価値ある時間だと思います。そこに、この小作文コンクールの意義が存在していると考えます。

本年度は、どの作品も甲乙つけ難く、審査に大変苦勞いたしました。その中で入賞された作品は、複数の体験や経験を並べて主張するのではなく、ある一つの事例を挙げて、そこから主題の追求をしている作品が多かったです。深い追求ができていたと言えます。「親のやさしさと強さが僕の体の中で命となり今につながっている」「感謝とは、人と人がホッとする瞬間だと思う」「(コロナ禍前と変わらず楽しいお祭りができるのは)大人の人たちが、伝統をつないできてくれたからだ」「命は思いやりで育ち、思いやりで変わることができる」等々。体験や経験を「価値あるもの」とするのは、そこに、その子に考えを巡らす力があるかどうかで決まるのだと子供たちの作文を読んで再確認しました。

「日常生活の中で、立ち止まって考える習慣」は、心の成長のためにとっても重要なものであると思います。そういう意味で、この小作文コンクールが、子供たちの心の成長のために意味あるものとして今後続いていくことを願わずにはられません。

最後になりましたが、本事業に御賛同いただいた各小学校の校長先生方、そして、子供たちの作文を指導して下さった担当・担任の先生方に心よりお礼申し上げます。

第15回牧之原市立小学校『いのちのつながり』小作文 コンクール審査結果

優秀賞

牧之原市長賞	さかした 坂下	りょうま 稜真	坂部小6年1組	「親」
牧之原市教育長賞	なかじま 中嶋	いと 要富	細江小5年2組	「感謝」
モラロジー道德教育財団賞	すぎやま 杉山	しずく 雫	萩間小6年1組	「感謝」

特選

静岡県モラロジー協議会長賞	みずの 水野	あつき 葵月	相良小6年1組	「思いやり」
静岡県モラロジー協議会長賞	しみず 清水	そうすけ 颯介	地頭方小6年1組	「思いやり」
静岡県モラロジー協議会長賞	いけがや 池ヶ谷	ひびき 響	川崎小5年1組	「いのち」

入選

※順不同

5年生

ほらさき 原崎	かいと 海斗	菅山	「感謝」
しばた 柴田	ろく 陸	萩間	「家族」
しばた 柴田	がくし 岳志	地頭方	「友情」
つくだ 佃	らいと 來和	地頭方	「両親」
さとう 佐藤	こう 光	牧之原	「親」
もとすぎ 本杉	とうま とうま	川崎	「感謝」
ひらおか 平岡	みなみ みなみ	川崎	「昔の人に感謝」
おおいし 大石	りあ 麗愛	細江	「みなさんに感謝」
いづか 飯塚	そうや 颯埜	勝間田	「思いやり」
おぜき 小関	いちろ いち路	坂部	「私が大好きな家族」

6年生

やぎ 八木	うたな 詩夏	相良	「いのち」
いまむら 今村	あさひ 朝陽	菅山	「感謝」
こづか 小塚	なみ 夏美	地頭方	「いのち」
てらだ 寺田	りや 莉也	地頭方	「感謝」
なかやま 中山	りよ 理世	川崎	「生きのびたいひまわあちゃん」
おぎき 尾崎	はな 花	川崎	「いのちってなに？」
おおいし 大石	いろは 彩華	細江	「家族」
しらいし 白石	まお 真央	細江	「いのち」
えんどう 遠藤	りこ 莉子	細江	「いのち」
むらまつ 村松	じんた 甚多	勝間田	「いのち」

佳作

※順不同

5年生

横山 駿	相良	堀内 えな	川崎
紅林 杏奈	相良	酒井 祐	川崎
今村 翔愛	相良	寺本実生	川崎
名波 紗英	相良	加茂川 侑那	川崎
前田 碧音	相良	中西 ねね	川崎
山本 優心	相良	望月 優衣	川崎
溝口 蓮珠	相良	加藤 海琉	細江
河原崎 湊	菅山	曾根崎 董子	細江
門田 桜和	萩間	中村 咲	細江
増田 希虹	萩間	マチャレカイルン	細江
山下 大翔	地頭方	萩原 かえで	勝間田
松下 幹典	牧之原	大石 悠人	勝間田
鈴木 瑠菜	牧之原	後藤 杏	坂部
石間 聖彩	川崎	斉藤 乃々葉	坂部

6年生

齊藤 尚希	相良	大石 萌心	細江
阿部 颯人	相良	水野 美咲	細江
長野 るか	相良	石神 希咲	細江
土屋 咲	相良	大石 結和	勝間田
池ヶ谷 結	相良	櫻井 比呂	坂部
渡邊 蘭々	菅山	福世 悠翔	坂部
鈴掛 來蘭	菅山		
木島 心音	萩間		
長野 愛未	萩間		
吉本 清華	地頭方		
縄巻 凜柚	牧之原		
原崎 羽未	牧之原		
高塚 朱里	牧之原		
大澤 暖乃花	細江		

優秀賞 牧之原市長賞

親

坂部小学校 6年1組

さかした りょうま
坂下 稜真

僕の家には、いつも甘くて幸せな香りがただよっている。
お菓子屋の父が、朝早くから、工場で作るお菓子のにおいだ。ひとつひとついねいにつくられた和菓子は、食べる人の心をふわりと温かくしてくれる。

父の仕事は、たくさんの人に笑顔と幸せを届けること。
父のやさしさは、和菓子を通して多くの人の心に届いているんだ。

僕は、父の作った和菓子を食べ、たくさんの愛情をもらって育った。親の優しさと強さが、僕の体の中で命となり、今につながっている。

これから先、僕が誰かにやさしくなれたり、誰かの役に立てたりしたとき、それはきっと、親たちの温かい手から受けつないだ命のバトンなのだと思う。

お菓子の甘い香りが、稜真さんの家族にとっては、「幸せ」の香りなのですね。お父さんのお菓子を作る姿を見て、お父さんのお菓子作りに対する思いを感じ取りました。両親から受け継いだやさしさと強さが稜真さんの命の礎となっていることを実感したことを記したこの作文を生涯大切にしてください。

優秀賞 牧之原市教育長賞

感謝

細江小学校 5年2組

なかじま いると
中嶋 要富

わたしの感謝の考え方は、「ありがとう」と言われ「どういたしまして」と言うその人と人が感謝し、ホッとするしゅんかんだと思う。

理由は、わたしは学校に行く時、車が止まってくれていた時、頭を下げ、「ありがとう」の気持ちを伝えるように心がけている。

その時、車のうんてんしゅさんの顔を見て、「どういたしまして」の気持ちの頭を下げられるかどうか見ている。

一見、へんなことだが、わたしの考え方はそういうことだ。人と人がホッとするしゅんかんが、わたしの感謝の考え方だ。

「感謝」を単に「ありがとう」の言葉で表すものではなく、「人と人とがホッとする瞬間」である、という独自の考え方を打ち出した要富さんに心をうたれました。車が止まってくれた時のお礼のみに焦点を当てるのではなく、そのお返し「どういたしまして」があって、そこに「感謝」が生まれるという例示は、大人に対する警鐘と受け止めました。

優秀賞 モラロジー道徳教育財団賞

感謝

萩間小学校 6年1組

すぎやま しずく
杉山 雫

わたしは、今年の十月に地域のお祭りに出ました。にぎやかで、子どもも大人も楽しんでいました。

お祭りを楽しんでいると、コロナの時期のことを思い出しました。一、二、三年生の時は、コロナウイルスが流行り、お祭りが出きませんでした。

四年生の時から再開して、小さかった時となにも変わらない楽しさでした。それは大人の人たちが伝統を継いでくれたからだと思います。

自分たちが、大人になる時もみんなで楽しめるように引き継いで行きたいので、今のうちからお手伝いなどに参加していきたいです。

お祭りを通して、地域の方々への感謝の気持ちをもつことができました。雫さんのすばらしいところは、「感謝」を「ありがとう」で終わらせるのではなく、「伝統を引き継ぐ」というところまで意識を高めているところです。コロナ禍を大切なことを学ぶきっかけとしてしまうところが素晴らしいです。

特選 静岡県モラロジー協議会長賞

思いやり

相良小学校 6年1組

みずの あつき
水野 葵月

命と思いやりは、強いつながりがあると、私は思いました。命は、人との思いやりで育ち、思いやりで変わることができる。

例えば、困っている人がいたら、助けてあげるとする。助けてもらった人は、うれしく感じる。そうすると、「自分も助け合いたいな。」って少しは思える。

思いやりに、ふれればふれるほど、思いやりが増えて、命がまた育つ、心と命は、一心同体、思いやりで心も育つ、私も思いやりが強い命に育ちたいです。

そのために、もっと人たちと助け合いたいと思いました。

「命は人との思いやりで育つ」という葵月さんの主張には、心を打たれました。「強い命」と「弱い命」は、思いやりに触れた量で変わるのですね。「命は一つ」というだけではなく、命自体が育っていくものであるという新しい「命」の在り方を提示してくれたのは、すばらしいです。

特選 静岡県モラロジー協議会長賞

思いやり

地頭方小学校 6年1組

しみず そうすけ
清水 颯介

ぼくは、空手をやっています。ぼくの空手の先生は、「おもいやり」や「相手のことを考える」ということを大切にしています。

だから、ぼくは先生から学んだ「命の大切さや尊さ」や「思いやり」を活かしながら、生活していきたいと思っています。

最近、ぼくは先生から学んだことを活かすために、牧之原市であった竜巻災害の募金のお手伝いをしにきました。

みんなから感謝され、これで被災した人達が助かると思うと、「命の尊さ」を改めて実感できました。

ぼくは、これからも先生に感謝し、学んだことを活かして生活していきたいです。

空手を習うことで、颯介さんが、ただ「強くなる」だけでなく、精神的な面も鍛錬させてもらっていることがよく分かりました。先生から学んだことを実行に移したことが素晴らしいことで、学んだ精神が実感できた貴重な体験となりました。

特選 静岡県モラロジー協議会長賞

いのち

川崎小学校 5年2組

いけがや ひびき
池ヶ谷 響

ぼくが「いのち」というテーマを選んだ理由は、自分の家族やおじいちゃんやおばあちゃん、ご先祖様について考えようと思ったからです。

まず、家系図を書いてみました。初めはたくさんの方がいるなとしか思っていませんでしたが、続けて書くと、自分が生まれるまでにたくさんの方がかかわっていて、誰一人かけては、いけないんだなと思いました。

そして、ぼくは、たくさんの方が、いのちをつないでいるのだと知り、自分のいのちを大切にしようと思いました。

御先祖様について考えようと思い、実際に家系図を自分で書いてみることによって、改めて自分の「命のつながり」を視覚的に実感することができました。実際に家系図から「つながり」を見るのと、聞いたり本を読んだりするのでは、大きな違いがあったと思います。これからの「つながり」のために、自分の命の大切さを再確認できました。

入選（5年生）

「感謝」

菅山小学校 5年1組
はらさき かいと
原崎 海斗

お父さん、お母さんへ、いつも、ぼくのことを支えてくれて、本当にありがとう。

どんな時も、ぼくの味方でいてくれてうれしかったです。

勉強や生活でうまくいかない時も、温かい言葉と笑顔で元気をくれました。おかげで、毎日がんばることができます。

これからもっと感謝の気持ちを行動で伝えられるように、努力します。

いつまでも元気でいてください。心から幸せです。

この作文を書くことで、いつもどんな時も海斗さんの味方でいてくれるお父さんとお母さんに精一杯の感謝の気持ちを表すことができました。「感謝の気持ちを行動で伝える」第一歩となりましたね。「心から幸せ」はお父さんもお母さんも同じ気持ちだと思います。

「家族」

萩間小学校 5年1組
しばた りく
柴田 陸

ぼく達は、自分一人で生きているわけではありません。

お父さん、お母さん、兄弟、たくさんの人の手助けをうけて生きている人だと思います。

よく、いところがお母さんにおこって「ママなんかいなくなっちゃえ！」と言っているのを聞きます。いところは、昔お父さんが無くなってしまい、お母さん、妹の三人でくらしています。

だから、おこっているのを見ると、「ママがいなくなっちゃったらご飯や洗たくはどうするの？」と聞くと、少しなやんだ後「自分で作る！」というけど自分だけで色々な事をしながら、学校に行かないといけないし、まだ2年生だから無理だと思います。

親だけではなく兄弟、姉妹にも手伝ってもらうこともあります。

だから、ぼくは家族は本当に大事だと思います。

いとこの言動をいつも心を痛めて聞いていたのですね。陸さんの素晴らしいところは、そんない所に声をかけてあげているところです。なかなかできないことです。いつか、いとも陸さんが思っている「家族は大事」ということを感じ取れてくれるといいですね。

「友情」

地頭方小学校 5年1組
しばた がくし
柴田 岳志

ぼくには友達がたくさんいます。

ですが、かならず学校に行くと仲が良い人、悪い人がでてくると思います。

その人と、仲良くすることは、かなりむずかしいとぼくは思っています。

自分のクラスにも、かならずいると思います。

ですが1年生の時からずっと仲が悪かった人が5年生で仲良くなりました。

これは学年の問題ではない。きっと4年間ともに生きていたから、やっとわかりあえたのだと思います。

また、仲が悪い人が、仲良くなって自分達のクラスのみんなが全員で仲良く遊べるようなクラスを作っていきたいと思いました。

会ってすぐに仲良くなる友達と仲良しになるために4年間もかかる友達もいるのですね。今、仲が良くないから友達じゃないと決めつけずに、「分かり合おうよ」とみんなに呼びかけ、是非、卒業までにみんなが仲良く遊べるクラスをつくるためのリーダーとしてがんばってください。

ご両親の思いの詰まったすてきな名前ですね。名前の由来を聞いて、「うちの両親は天才でやさしい」と思ってくれたことに、お父さんもお母さんも嬉しかったと思います。名前の由来のように生きている息子を誇らしく思っていることでしょう。

「親」

牧之原小学校 5年1組

きとう こう
佐藤 光

わたしは、小さいころ病気にかかりやすい体質でした。

けど、お母さんとお父さんが、育ててくれたおかげで元気に育ちました。

毎日ごはんを作ってくれるお母さん、遊んでくれるお父さんがいるおかげで元気に育っているんだなと気づきました。

これからも、このいのちを大切に笑顔で毎日をすごしたいです。

元気に生きて、がんばることが本当の親孝行だと思います。

いつかわたしも、お父さんとお母さんのように人を大切にできる大人になりたいです。

お父さんとお母さんへの感謝の気持ちを考えているうちに「元気に生きてがんばることが本当の親孝行」という考えにいきつきました。「感謝の気持ち」と「命の大切さ」が結びつきました。この作文が、ご両親への最高の「感謝の言葉」となりました。

「あなたたちは、親や地域の人に感謝していますか？」
「ぼくはしています」と言いきれているとうまさんに感服しました。「小さなことを」「息をするようにしていく」と言っています。すごいことです。感謝の気持ちを返すということがとうまさんにとっては、日常の行動になっているのですね。

「両親」

地頭方小学校 5年1組

つくだ らいと
佃 來和

ぼくは、両親に自分の名前の由来を聞いてみました。

來と言う字は、人が三つありますよね。それは友達がいっぱいできるように。

和は平和でいるように。

そして來和（らいと）はライトのように光っているようにという意味のことでした。

この名前をつけてくれた両親は天才でやさしいです。そして、このすてきな名前をつけてくれてありがとう。

ぼくはこの名前の由来のように生きています。

「感謝」

川崎小学校 5年1組

もとすぎ
本杉 とうま

あなたたちは、親やちいきの人に感謝していますか、ぼくはしています。

たとえば、ぼくは小さなことをしています。あいさつをしたり、こまったら助ける。そうやって感謝を返していけばいいと思っています。

すこしこまったら助ける、それを息をするようにすれば、感謝を返せると思っています。

みんなもどれだけ小さなことも助けてあげる、そうすれば、小さなとき助けてもらったおんを返せてると思います。

みんなもやってみましょう。

「昔の人に感謝」

川崎小学校 5年1組

ひらおか
平岡 みなみ

私は、昔の人に感謝したいです。
理由は、昔の人たちが一生けんめい生きてくれたおかげで、今私たちが生きているからです。

昔の時代には、便利なものはありませんでした。そんな大変な中、昔の人たちは、この生活をより良くしようと工夫したり、家族などを守るためにがんばってきました。

そういう努力が積み重なって、今の私たちの暮らしにつながっています。

私は「昔の人たち、ありがとう」といいたくなります。

私たちが今、生きて、泣いたり、笑ったりできているのは、昔の人たちががんばってくれたおかげです。「ありがとう」

「昔の人々への感謝」というのは、新しい視点だと思いました。「命のつながり」を「昔の人々の努力のつながり」と捉え、つながりの先に今の「暮らしの発展」を見出しました。「つないでいく」というのは、本当に尊い営みであることが、みなみさんの作文から伝わりました。

「みなさんに感謝」

細江小学校 5年2組

おおし りあ
大石 麗愛

9月5日、牧之原市細江区に竜巻が起きました。

それで、たくさんの人々の家がこわれたりして、かたづけをするのが、とても大変でした。

自分の家のまどや車などがわれたりして、ガラスのかたづけをしている時、テニスのコーチ、友達などたくさんの人が心配してくれて、家まで来て、てつだってくれた方もたくさんいます。

また、災害が起きたら、こんどは、自分がてつだいたいと、心からとても思います。

台風15号の竜巻被害は、想像もつかない見たこともない惨状でした。その渦中で、お手伝いに来てくださった方々に目を遣り、「みなさんに感謝」という気持ちを持ち、「今度は自分が」と前を向く麗愛さんの強い心に感服します。一日も早い復旧・復興を願います。

「思いやり」

勝間田小学校 5年1組

いづか そうや
飯塚 颯埜

ぼくたちの学校では、ちくちく言葉をなくして、ふわふわ言葉をたくさん言おうという活動をしています。

ちくちく言葉は、相手の心がきずつく言葉、ふわふわ言葉は、相手も自分もうれしくなる言葉です。

ぼくがふわふわ言葉を言った時、言われた時はとてもうれしかったです。

たくさんの人に、伝わっていると思うけど、まだ伝わってない人がいるから、ふわふわ言葉をたくさん使って、よさを伝えていきたいと思います。

勝間田小学校では、みんながとても素敵な運動に取り組んでいるんですね。この運動は、学校内にとどまらず、学校外そして大人になるまでとても大切な「言葉選び」の基準となるものだと思います。颯埜さんがリーダーとなり、みんなが「身に付く」ような運動に盛り上げていてください。

好きなお菓子も嫌いな食べ物も似ているいち路さん家族のほんわかした日常が、浮かんできます。「家族のあかし」を食べ物に見つけたいち路さんの視点がとても新鮮でした。大好きな家族とこれからも元気で明るく過ごしてくださいね。

入選（6年生）

「いのち」

相良小学校 6年 2組
やぎ うたな
八木 詩夏

お母さんへ。
私は小さい頃、お母さんから「小さなアリにも家族がいるんだよ」と教えてもらいました。わざと踏んだり、殺してはいけないと言われ、前よりもっとアリの命の重さを知りました。
それから私は、アリのような小さな生き物を見るたびにお母さんの言葉を思い出し、「この子にも家族がいるんだ」と思うようになりました。
アリの命も、私達の命も、どれも一つしかない大切なものです。お母さんのおかげで、命のつながりに気づくことができました。
生き物の行動が一つ一つで、私が生まれてきたのかもしれないと思いました。

「小さなアリにも家族がいるんだよ」と我が子に教えたお母さんとそのことをずっと心に刻んで生き物の命を大切に思ってきた詩夏さん。「命がある」のではなく「家族がある」と教えたお母さん自身が「いのちのつながり」の意識をしっかりとった方なんだと推察しました。その思いは「いのち」と同じように次の代へとつながっていくでしょう。

「ありがとう」の言葉がとっさに出してしまう、という朝陽さんは、きっと、日常の当たり前にある小さな出来事にも「感謝の心」をもつことができるのでしょうね。周りの友達も朝陽さんの「ありがとう」で助けられているのではないのでしょうか。

「私が大好きな家族」

坂部小学校 5年 1組
おせき ろ
小関 いち路

おもしろいお母さん、やさしいおじいちゃん、なんでもできるおばあちゃん。

そんな、お母さんたちが、家族で良かったなと、毎日思っています。

そして、同じおかしが好きなこと、きれいな食べ物が同じこと、私はにていることは、家族のあかしだから、とてもうれしいと思っています。

これからも、毎日元気で、私が大好きな家族でいてね！

「感謝」

菅山小学校 6年 1組
いまむら あさひ
今村 朝陽

「ありがとう」と、私は必ず伝えています。

家族、友達、先生、初めましての人でも、お世話になったり、自分がうれしくなることをしてもらったりしたら、とっさにこの言葉が出てしまうのです。

家族には「育ててくれてありがとう。」友達、先生には「いつもありがとう。」と、感謝しています。

毎回感謝をしても、はずかしくてなかなか伝えられないときもあります。

そんなときでも、勇気を出して、伝えています。

「ありがとう」という言葉を大事にして、他の人と関わっていきたいです。

「いのち」

地頭方小学校6年1組

こづか なみ
小塚 夏美

私の小学校は、海に近いところにあります。

地震が起きたら、すぐに津波が来ます。だから、ひなん訓練が多いです。

自分の命を守るために、ひなん訓練でも一生懸命取り組んでいます。

私は高学年なので、ふざけている人がいたら、注意することを心がけています。

家でも、災害がおきたときのために、防災バッグを準備しています。

地震がおきたときに家にいたら、準備していた防災バッグを持って逃げたいです。

「避難訓練」を「訓練」と思わずに「自分の命を守るためのもの」としっかりと認識をしていて立派だと思います。それ以上に、高学年として、ふざけている人を注意するという行動を取れていることに感心します。これまでの「訓練」の積み重ねが、尊いものとなりました。

「感謝」

地頭方小学校6年1組

てらだ りや
寺田 莉也

私は、私のことをいつも支えてくれる人達全員に、とても感謝しています。

優しい家族、仲良くしてくれる友達、悪いことをしたら、おこってくれる先生方、ボランティアなどに参加してくれる地域の方など、たくさんの方が私を支えてくれる環境に生まれてくることができて、私はとても幸せです。

あたりまえに学校に通える、ふつうの生活ができる、これだけでも十分幸せなのに、周りの人はいい人ばかりで、本当にめぐまれていると感じました。

身近にいる人ほど、その人達がいることをあたりまえとってしまうので、私は、私を支えてくれる人達全員を大切に、感謝をし、いつか恩返しをしたいです。

「生きのびたひいおばあちゃん」

川崎小学校6年2組

なかやま りよ
中山 理世

私のひいおばあちゃんは、小学生のときに、第二次世界大戦を体験しました。

そのとき、ひいおばあちゃんは、友達と遊んでいる所、サイレンが鳴り、とっさに近くにあったそっこうにかくれ、運良く生きのびたそうです。

亡くなってしまっている人もいます。生きのびることができて、とても嬉しかったそうです。

このように、生きのびてくれたひいおばあちゃんのおかげで、今私は生きています。

この命を無駄にせず、生きたいです。

この作文を書くことで、当たり前のようにいてくれる周りの方々に対して、改めて感謝の気持ちを持ち、そんな自分を「幸せ」と思える機会となりました。とても心が温かくなる作文です。莉也さんの気持ちを是非周りの皆さんにも届けてください。

ひいおばあちゃんが「戦争体験」を話してくれたのですね。それを真剣に理世さんが聞き、受け止めてくれたことにひいおばあちゃんは、改めて「生きていてよかった」と思っていると思います。戦争は、その人の命だけではなく、次の時代の命まで断ち切ってしまうものであることが分かりましたね。

「命」についてのたくさんの「問い」をもちました。日常生活の中で、このような「問い」をもつことはありません。この作文を書くことで、自分の頭の中に浮かんだ「問い」を吐き出すことができました。問いに対する正解はなくても、「命」に目を向けたこと自体がとても大切な機会となりました。

「家族」

細江小学校 6年 2組

おいしい いろは
大石 彩華

いつも家に帰ると家族がいて、今日のでき事や、うれしかった事を一番に聞いてくれて、自分にとって一番大切な存在です。

そんな家族に育ててもらって、いつも隣にいてくれて私は、返しきれないほどの幸せな日々を送ってこられました。

今の家族に育ててもらって、友達や関係を築けていて、日々の中でも今の家族のおかげで、今の自分がいるという実感を感じられます。

この家族の元に生まれてきてよかったです。

12歳にして、家族に対して「返しきれないほどの幸せな日々」を送ってこられた、という実感をもっている彩華さんです。これからの人生の中でもっとたくさんの幸せを家族から与えてもらえるでしょう。その分、家族の皆さんも彩華さんから幸せをもらっていることに感謝しているに違いありません。

小さいころの出来事、そして、小さな小さなダンゴムシたちに思いを寄せて書いたとてもやさしさがこもった作文です。命の大きさに人間も虫も動物も関係ないという静かな主張が伝わってきました。きっと、人に対してもやさしい気持ちをもつ真央さんだと思います。

「いのちってなに？」

川崎小学校 6年 2組

おさき はな
尾崎 花

私たちが今、生きている命は永遠に受け継がれていて私たちも、その命を生きています。

命とは何だろうか。心臓なのか？気持ちなのか？「生きてる」という事を命というのか？死んだら命はどうなるのか。

身体は焼けて骨になるけれど脳みそや気持ち（心）命は何になるのか。

人間は誰でもいつかは死ぬけれど、死んだら気持ちや心はなくなるのか。

私の考えは、人は生きているからみんな命をもっている。

当たり前だけど今日も受け継がれている命に感謝して過ごしたいです。命にありがとう。

「いのち」

細江小学校 6年 1組

しらいし まお
白石 真央

私は、昔育てていたダンゴムシ達へ小さいころ、ちかくの神社でダンゴムシをいっぱいとってきて、虫かごの中におち葉、木の枝などをいれて大切に育てました。

ペットボトルのふたに水をいれてあげたり、毎日おち葉を変えてあげたりして、愛情をこめて育てました。

ある日、いつものように、おち葉を変えてあげようと虫かごをみたら、1ぴき残らず亡くなっていました。

それからはショックすぎて虫をひろってくるのをやめました。

それに、命の大切さも分かりました。

「いのち」

細江小学校 6年1組

えんどう りこ
遠藤 莉子

私は「台風」という災害を経験している。

その時は、家がこわれたり、家族と会えなかったりしている家がたくさんあった。

その時は、みんな悲しかったし、みんなつらかった。

私は、そこで思った。「今、生きていること、笑っていることは何か一つかけているとできていない。みんなの支えでできている。」と思った。

だから、この命、笑顔、そして支えてくれるみんなに感謝し、みんなに「ありがとう」って伝える。

「災害」という悲しく辛い出来事に遭遇したことで、「みんなの支えの有難さ」や「命」について考える機会となりました。辛すぎる現実を前にしてプラスの方向に考えを巡らすことができた莉子さんは、これからの人生の中で、きっと、困難を乗り越えられる力を手に入れたのではないかと思います。

「いのち」

勝間田小学校 6年1組

むらまつ じんた
村松 甚多

僕は、動物のテレビ番組を見ているときに、ねこが何匹も殺処分されるという内容を見たことがある。

最初「殺処分」という言葉を聞いてビックリした。言葉の意味はまだわからなかったけど、漢字から意味がわかった。

ひどすぎると思った。

まだ小さくて幼いねこをなんでそんな簡単に、殺処分しようと思ったのか。

最近、熊のニュースが沢山流れている。みんな「熊が悪い」と言っているけれど、僕は悪くないと思っている。人間が、熊のなわばりの木を切っているから熊が下りてきてしまうと思う。

話を通して、つまり僕は、動物を簡単に殺処分したり、動物のなわばりを勝手に変えないでほしいということを言いたい。

命は、とても尊いものだから、動物を簡単にあつかわないでほしい。

熊による被害が多発している現状から、自分なりの考えを主張することができて立派です。元は人間による環境破壊であることを嘆いているのですね。人間がやってきたことの結果が、今の状況を作っているという動物からの警鐘を重く考えていきたいですね。甚多さんの作文を読んで考えさせられました。

『いのちのつながり』小作文応募者

(順不同)

相良小学校

5年1組

一木 ひかる
今村 翔愛
うへはら らりさ
内田 友
大田 磨我
大高 楓佳
大場 あたり
河原崎 和奏
河原崎 葵
富田 詩
長野 隼大
名波 紗英
はし本 蓮
本間 惺
前田 碧音
増田 えれな
増田 碧斗
溝口 蓮珠
村上 心人
森田 舟
山田 にこ
山本 優心
横山 駿
米山 藍
渡辺 斗真

5年2組

伊藤 未来
植田 望彩
大石 菜晴
越智 あすな
神谷 敬済
河村 蒼
河村 奏来
紅林 杏奈
紅林 音希
清水 咲那

杉山 小夏
直里 丈一郎
鈴掛 遥斗
竹田 晟空
名波 瑠依
仁藤 藍歩
蓮池 星南
藤澤 いりあ
本間 伶
牧 琴音
増田 勇翔
矢部 心彩
山下 小春
山本 あかり
山本 來輝
米山 碧
和平 来雅

6年1組

相羽 麟太郎
石原 沙天
一木 歩丸
鴨川 真斗
川口 そう太
川村 紘之
木内 福実
小塚 心遥
齊藤 尚希
佐々木 杏
佐々木 里緒
清水 海風美
鈴木 玄雅
土屋 咲
友田 さくら
永野 大地
長野 るか
中村 凌久
西谷 彩葉
端 玲奈

平田 喜子
平野 新太
藤田 愛翔
藤野 悠理
増田 笑理
増田 遥人
増田 來桃
水野 葵月
森田 來華
矢部 礼
山下 ナオキ
ラモス アユミ
リベイロ チエミ

6年2組

赤堀 颯
大野 笑果
小笠原 礼奈
鈴木 仁依菜
富田 美魅
中村 優志
名波 優芽
西尾 葵姫
西村 あまね
仁藤 綜亮
樋口 龍成
水野 夏帆
八木 心結
山本 翔太
阿部 颯人
池ヶ谷 結
岩崎 由奈
太田 結菜
河原 滯
河原崎 理生
小島 快都
澤入 想空
地主 心優
丹所 吏来

永野 杏南
長野 結那
ファム ミンロン
三浦 晴葵
水野 凜音奈
村下 愛悠
八木 詩夏
ルミオ ジロウ
ワタナベ カオリ

菅山小学校

5年1組

袴田 なのは
名波 蓮翔
河原崎 湊
新井 春陽
名波 綺花
原崎 海斗
川田 悠斗
尾崎 蒼馬
ワナシハ ナディルカ
芳野 雄正
水野 葉琉
戸塚 久遠
田平 こころ
赤松 来緯
赤堀 里空

6年1組

伊藤 來咲
今村 朝陽
遠藤 真緒
川田 茉紀斗
河村 太斗
紅林 駿希
紅林 俐玖
小杉 颯汰
匂坂 有俐花
鈴掛 來蘭

高塚 結菜
田平 喜一
戸塚 大翔
戸塚 蘭丸
中川 結愛
中島 結希
永田 大翼
西川 泰羅
蓮池 柑那
逸見 乃娃
水島 さくら
山崎 遥人
渡邊 蘭々
増田 奏仁

菟間小学校

5年1組

八木 快斗
横山 柚騎
門田 桜和
絹村 柚姫
柴田 陸
横山 楓歩
八木 心緒椋
増田 希虹
青島 莉音
柴田 彩美香
福代 芽彩
川上 武琉
戸田 コーダ
源間 光希
横山 結芽
長谷川 虹心
鈴木 麻紘
源間 響
飯野 湊太
長野 恵人
杉田 丞太朗
中嶋 爽宇多
中川 芽奈

6年1組

藤野 結衣
畠里 衣奈
長野 愛未
紅林 快星
落合 優愛
大石 裕士
大石 彩葉
杉山 雫
木島 心音
長野 愛菜
長野 凌太郎
増田 夢唯
増田 莉穂
大石 蒼真
松林 快星
岡村 珠愛
紅林 知宏
源間 修也
榛地 勇人
杉浦 隆真
戸塚 雄太
中田 知花
長野 莉莉
長谷川 楽音
藤野 彩葉

地頭方小学校

5年1組

栗本 琉那
池田 旭
岩瀬 奏音
植田 雄心
植田 煌
大窪 隼輔
大瀧 詠太
沖本 愛菜
カワノ アリセ
小塚 心緑
櫻井未来

柴田 岳志
清水 瑛斗
住田 愛実
佃 來和
永井 琉煌
中山 胡珀
中山 想彩
西原 莉隆
西村 拮依
西村 優希
原口 愛莉
原口 莉衣咲
増田 旭陽
増田 繁人
増田 せいた

6年1組

増田 貴斗
増田 拓磨
増田 碧音
松浦 紗羅
矢島 菜桜
山下 詠葉
山下 大翔
山本 希咲
渡辺 瑚都
浅井 ひまり
植田 涼菜
大瀧 優心
苅谷 リヴィア
小塚 夏美
齋田 潤
櫻井 那茅
佐々木 涼音
佐藤 翔琉
清水 颯介
田中 艶恋
寺田 莉也
飛澤 一輝
永井 日茉莉
中山 愛琉
原口 いおり

原口 凜々
増田 恋菜
増田 丈留
増田 奏太
増田 大惺
増田 春道
増田 陽葵
増田 桃佳
増田 悠真
松下 心玲
山内 優奈
山崎 陽愛
山本 悠翔
吉本 清華

牧之原小学校

5年1組

秋山 野分
飯田 雫
池ヶ谷 豪
大田 奏司
太田 湊人
太田 耀天
小笠原 しゅん
笠原 瑠香
黒田 未桜
小杉山 来菜
佐藤 光
柴原 ののか
杉浦 花音
鈴木 瑠菜
鈴木 玲美
田形 綜祐
西井 優真
西村 圭翔
松下 幹典
宮崎 楓翔
森田 至音
吉田 陽舞莉

6年1組

植田 悠斗
 片瀬 翔大
 加藤 陽菜
 河原崎 菜緒
 河原崎 未蘭
 五野上 理月
 坂口 由依
 鈴木 爽太
 鈴木 千穂莉
 鈴木 七海音
 鈴木 琉愛
 高塚 朱里
 高柳 貴心
 田中 智菜
 中嶋 啓太
 中田 湊門
 縄巻 凜柚
 原崎 羽未
 平井 蘭彩
 福島 遥來
 福島 來飛
 松下 晃太郎
 馬淵 結衣
 本杉 來音
 山本 獅武

川崎小学校

5年1組

石間 聖彩
 大石 縁
 大石 昊
 大川 詩織
 加藤 未来
 神崎 純
 川口 まなか
 桑高 音殊
 小林 ジョン
 酒井 祐
 佐藤 実織

佐藤 喜一
 新里 奈桜美
 高橋 風牙
 竹内 健士郎
 寺本 実生
 戸塚 未樹
 鍋田 彩希
 野村 菜愛歩
 平岡 みなみ
 堀内 えな
 牧野 紗和
 増田 海
 増田 侑奈
 松下 結衣
 望月 優衣
 本杉 とうま
 渡辺 葉月

5年2組

青木 埜愛
 荒木 梨央
 安藤 愛海
 飯田 颯真
 池ヶ谷 響
 池田 千紘
 伊東 玲吏
 上田 昂佑
 大石 いちか
 大石 伊千奈
 大石 昂
 大槻 栞
 尾崎 鉄星
 片瀬 梨花
 片野 絆夏
 加藤 羽奏
 加藤 凜桜
 加茂川 侑那
 柴本 唯那
 杉山 菜織
 中岩 優羽
 中西 ねね
 藤田 美空

村松 葵
 望月 颯真
 横山 咲良
 横山 じょう

6年2組

増井 夏希
 中山 理世
 岩瀬 シャンタル
 尾崎 花
 小栗 圭祐
 鈴木 快哉
 泉地 龍月
 増田 あいみ
 片瀬 龍成
 牧田 明香莉
 河守 愛絆
 片瀬 曆紀
 鈴木 華恋
 杉山 希織
 松井 梨佳
 柴田 来真
 森木 日誇
 福田 みみ穂
 中村 朔太郎
 前嶋 藍成
 本杉 陽斗
 山田 実花
 池田 弘哉
 野村 藍依
 紅林 瑛人
 大石 莉緒
 浜崎 虹心

細江小学校

5年1組

伊藤 創士
 馬上 依花
 大森 陽奈
 岡村 美於
 落合 完介

加藤 海琉
 川村 陸斗
 木村 和佳奈
 小泉 蕾
 郷野 一花
 櫻井 香月
 笹々塚 大芽
 庄司 彩希
 しらいし まこ
 杉山 明音
 杉山 晏梨
 鈴木 奏翔
 鈴木 慎二
 田中 柊羽
 田邊 成夢
 田原 りゅうじ
 鍋田 栞里
 橋本 妃翠
 橋本 咲耶
 細野 隆煌
 マチャレ カイリン
 松下 凜生
 村田 滯
 山本 海翔
 渡邊 芽依

5年2組

伊久美 蒼空
 池田 穂乃花
 池田 栞央
 伊東 凜和眞
 岩崎 由莉
 大石 爽太
 大石 真音
 大石 麗愛
 大釜 稜夢
 小川 ラウラ
 加藤 いつみ
 カバテ シャレド

小林 桃花
笹々塚 大翔
澤本 泰地
鈴木 羽汰
曾根崎 董子
田原 瑠奈
中嶋 要富
中村 咲
永脇 莉華
難波 董
西井 羽美
橋本 縁
羽根田 茉奈
増田 湊
水野 健
道田 蓮斗
八木 來乃実
山田 ユナ

6年1組

池田 叶夢
石神 希咲
イノ ガブリエリ
遠藤 莉子
大石 望夢
加藤 晴喜
櫻井 翔真
白石 真央
細田 悠叶
前田 友菜
松浦 成希
森川 想一郎
市川 美嶺
大川 永吉
加藤 栞里
木村 凱翔
ゴメス ベアトリス
櫻井 大和
鈴木 陽由
橋本 紘

畑 直矢
丸山 寧月
水野 望結
モゾニア ナルイザ
森本 ハウニ
良知 空波
三輪 愛夢
タカラ マユミ
井口 凜

6年2組

井鍋 伶南
岩本 權
大石 彩華
木村 洋士朗
庄司 碧依
中山 璃子
舟本 帆花
増井 寛人
増田 凜花
山村 風結
新井 似愛
大石 萌心
大澤 暖乃花
河野 心結
川村 麻衣
澤田 颯太
田中 孤楠
細野 結由
ボリバル ジーン
水野 美咲
向井 琢哉
山下 湮々愛
増田 テー
村上 葵
サトウ ペドロ

勝間田小学校

5年1組

飯塚 颯埜
柴 琳咲

萩原 かえで
吉岡 はな
高橋 のどか
大石 悠人
新井 美織
寺尾 侑紗
櫻井 誠人
橋尾 光
橋尾 明
飯田 航平
清水 晴季
秋山 勇弥
片山 朔
山本 海翔

6年1組

赤堀 佑玖奈
枝村 伶納
大塚 遼
大石 結和
大石 陽悠
小原 莉央
川口 航生
絹村 桜來
櫻井 冴凰
田中 瀬那
塚本 董
村松 甚多
村松 友希哉
山本 椰瀬

坂部小学校

5年1組

小澤 里杏
石神 美咲希
大石 菜心
大石 奏翔
斉藤 乃々葉
金原 滯那
河原崎 杏

後藤 杏
池ヶ谷 環那
鈴木 克弥
村松 恵多
小関 いち路
良知 美優
大石 猛斗
橋田 陸叶
神崎 一颯
大石 結委
寺田 伶央

6年1組

石神 佑一
石神 佑希斗
石神 玲士郎
大石 燿慈
小原 凜夏
齊藤 穂乃香
坂下 稜真
坂本 一紫
櫻井 比呂
鈴木 亜由
鈴木 結友
福代 源士
福代 ひなた
福世 悠翔
藤本 匠美
南谷 胡都
村田 結歩
横井 愛莉
良知 美紅



小作文応募数

学校名	5年	6年	合計
相良小学校	52	65	117
菅山小学校	15	24	39
萩間小学校	23	25	48
地頭方小学校	35	30	65
牧之原小学校	22	25	47
川崎小学校	55	27	82
細江小学校	61	54	115
勝間田小学校	16	14	30
坂部小学校	18	19	37
合計	297	283	580

モラロジー教育では「3つの心」を育てます

感謝の心

大自然の恵み、また家庭や国の恩恵などに対する感謝の心は、自分の命はもちろん、あらゆる命を大切にする尊厳性をはぐくみます。そして恩返しをしたり社会や世界に貢献していく勇気を育てます。

おもいやりの心

相手の立場に立って考えることのできる思いやりの心は、人の喜びや悲しみ・痛みへの共感性をはぐくみます。そして自分を反省したり、相手を許す謙虚さや周囲に奉仕する深いやさしさを育てます。

自立の心

夢や志に向かって、主体性を持って生きようとする自立の心は、家庭人、社会人、また国民としての責任感や使命感をはぐくみます。そして地域や国際社会に目を向けていくたくましさを育てます。

●モラロジーとは●

モラロジー(Morality)は、「道徳」を表す(moral)と「学」を表すロジー(logy)からなる学問名です。日本はもとより世界の倫理道徳の研究をはじめ、人間、社会、自然のあらゆる領域を考察し、人間がよりよく生きるための指針を探求し提示することを目的とした総合人間学です。

モラロジーでは、一人ひとりの幸せと心豊かな社会の実現には、人間の品性を高める質の良い道徳の実行が必要と考えています。一般に、道徳は「人間の行為の範囲」と理解されているように、行いや形式面が強調されがちです。モラロジーでは、行いはもちろんですが、それ以上に行いのもととなる心のあり方(こころづかい・考え方)を重視しています。

第15回「いのちのつながり」小作文作品集

発行日 令和8年3月

発行 小笠原モラロジー事務所

〒421-0412 牧之原市坂部 620-1

TEL(0548)29-0515

URL: <https://www.ogasa-haibara-mc.jp/>

E-mail: morality12658@gmail.com